

## こだいらふるさと冊子編集部のコーナー

「連」では、地域の話題や市民活動の動きをより広く集め、情報として提供するために、「こだいらふるさと冊子編集部」の方々に関わってもらうことになりました。今後、各方面に問合わせや取材でお伺いした際には、どうぞよろしくお願いいたします。

# 子どもたちの居場所づくりと地域の絆

## —小平三小放課後子ども教室の取り組み—

「さようなら」と先生方に元気なあいさつをして下校する子どもたちを、三小のキャラクター「三小(みこ)ちゃん」が大きくプリントされたエプロンをつけて見守る大人たちがいる。三小放課後子ども教室のスタッフである。子どもたちは「今日は何の教室があるの?」「今日はクッキング教室に初めて参加するの!」「学童クラブへ行ってランドセル置いてくるから待っていてね」と親しげに話しかけ、スタッフも「はい、〇〇ちゃん」と応じている。

三小放課後子ども教室では、年間約200回の教室を開催。教室の内容はクッキングや折り紙・将棋・生け花・習字、またはいろいろな学年の子どもたちが体を動かして一緒に遊ぶもの、読書と読み聞かせの教室、好きなことをして自由に過ごす教室など多岐にわたり、約24種類にもなる。そのほとんどが近所にお住まいの方を講師として迎えて開催される、地域密着・手作りの教室である。子どもたちは放課後のひとときを学校という安心できる場所で過ごし、他の学年の子どもや近所の大人たちと触れ合う。子どもが安心して過ごせる場所であり、社会性も養われる場である。

### 大人たちが信頼し合い協力する姿

三小放課後子ども教室には、実行委員長の甲斐さんを中心として多くの大人が関わっている。講師、教室の運営を担うスタッフ、自分の子どもと一緒に参加してお手伝いをする保護者など、子どもたちは実に様々な大人に見守られている。スタッフは、地域住民の方も多い。そのため教室では子ども、保護者、上は祖父祖母らまでの世代が同じ時間を過ごす。スタッフ同士の信頼も厚く、楽しい雰囲気に包まれている。地域住民の方たちは、民生・児童委員をしている方を中心として口伝えで誘い合って来ているという。「やはり顔と顔を合わせて、協力してひとつのことをやるからこそできる絆でしょうね」と地域住民の方。そんな、大人たちが信頼し合い協力している姿は子どもたちにとっても何よりよいお手本になっている。



異学年、保護者、地域住民といった様々な世代が顔を合わせている

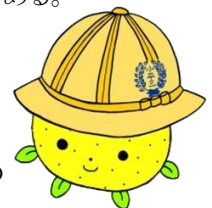


将棋教室ではプロ棋士の谷川治恵氏も教える。子どもたちもとても楽しみにしている

保護者と地域住民の方の距離が近いので、子育てが一段落した世代の地域住民の方に、保護者が子育ての相談をしたり悩みを聞いてもらったりということもあるそうだ。ふだんから放課後子ども教室の場で接して信頼関係ができているからこそそのエピソードである。

三小放課後子ども教室は、子どもたちの安心できる居場所であり、同時に地域の絆作りの役割も果たしている。

(右)三小のキャラクターの「三小(みこ)ちゃん」



(こだいらふるさと冊子編集部 源馬道子)

「こだいらふるさと冊子編集部」とは、小平市中央公民館主催で平成24年5月から6月に開催された講座「ふるさと冊子編集プロジェクト」から生まれたサークルです。地域で活躍している方に話を聞き、まとめた冊子「やっぱりこだいらが好き」が公民館等で無料配布され、市立図書館にも所蔵されています。